

令和7年度第2回病院薬学認定研修会

地域医療連携の構築

山間地中小病院の取組を通して

日之影町国民健康保険病院

甲斐裕美

2025. 12. 14

地域医療連携の手引き
(Ver.2.0)

一般社団法人 日本病院薬剤師会
令和5年6月7日

1.地域医療連携の目的・導入・体制構築・運用

1-1 地域医療連携の目的

1-2 地域医療連携の範囲、対象患者

1-3 基本的な連携

1-3-1 基本的な連携方法

1-3-2 基本的な情報

1-3-3 地域医療連携のためのツール

1-3-4 地域医療連携する上で心がけること

(中略)

2. 保険医療機関における地域医療連携の実際

2-1 外来での運用例

2-2 入院時での運用例

2-3 退院時での運用例

2-3-1 保険医療機関から地域へ（退院時の情報提供）

2-3-2 地域から保険医療機関へ（地域からフィードバックされる内容）

3. 地域医療連携を充実させるために

3-1 入院医療と施設間連携

3-2 地域連携部門の活用法

3-3 薬剤部門での対応

1-3 基本的な連携

1-3-1 基本的な連携方法

患者は、治療のために保険医療機関に通院や入退院を繰り返すこともある。こうしたなかで我々薬剤師は、どこかの場面で患者の薬物療法に関わることになり、その患者の適正な薬物療法の一端を担うことになる。

例えば、入院時に「お薬手帳」から処方歴・薬歴を把握し、その内容が不十分な場合には、確認のためにかかりつけ医やかかりつけ薬剤師に問い合わせ、得られた情報をその後の処方提案や服薬指導に活用する。

また、退院時には、入院中の薬物療法、その意図や経過などを、お薬手帳や施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）を用いて、次に患者を受け持つ医療・介護スタッフに発信をする。このように、処方歴・薬歴などの患者情報の確認と発信が連携の基本となる。

2-3 退院時での運用例

2-3-1 保険医療機関から地域へ（退院時の情報提供）

入院患者の場合、処方薬の内容が変化しやすいため、退院時には、入院中の薬物療法、その経過などについて、お薬手帳や施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）を用いて、次に患者を受け持つ医療・介護従事者への伝達を図る。

また、近年、急性期病棟を中心に入院期間は短縮傾向にある。

さらに、機能分化が進んだことにより、複数の保険医療機関を経由して自宅へ戻る事例が増加しており、安心・安全で質の高い薬物療法を担保するためにシームレスな地域医療連携の構築が望まれる。

退院支援として開催される退院時カンファレンスでは、保険医療機関の薬剤師が保険薬局薬剤師などへ、入院中の薬剤の変更理由や退院後も継続してモニタリングが必要な項目などを情報提供することが重要である。

特に、在宅療養で使用する薬剤情報を共有することは重要である。

また、退院直後に保険医療機関の薬剤師と保険薬局薬剤師が訪問薬剤指導を共に行うことで、薬物療法が安全に継続されると共に、患者・患者家族とも関係づくりがスムーズになる。

3-1 入院医療と施設間連携

医療制度改革や介護制度改革の進展に伴い、患者の状態に応じた様々な医療環境や療養環境が提供できるように整備が進んできている。

例えば、一般急性期病院からの転院先を例示すると、
自宅療養の準備を行う「地域包括ケア病棟」
機能回復と社会復帰を目指す「回復期リハビリテーション病棟」
長期療養を担う「療養病棟」など、
患者の状態に応じて転院するケースも少なくない。

その他にも、

「介護医療院」、「介護老人保健施設」や「介護老人福祉施設」などの介護保険施設への入所、

居宅介護サービスを利用できる「認知症高齢者グループホーム（認知症対応型共同生活介護）」、「軽費老人ホーム（ケアハウス）」や「サービス付き高齢者住宅などへの入居、

障害福祉サービスを利用できる施設への入所 などの場合もある。

このような「ケア移行」時には、適切で安心安全な薬物治療が継続して実施されるために、情報の共有は大切である。

薬物療法については、薬剤師が作成する施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）などによる情報連携が有効である。

また、患者の状態や背景を把握し医師と協議することで、多剤併用の見直しや、ハイリスク薬を安全に継続していくことが、円滑な「ケア移行」につながる。

また転院先では、特殊な薬剤の使用制限や薬剤費が包括されている場合も多く、経済的な側面も念頭に置き、相手の施設の実情に合わせた適切な情報を提供することも必要となる。

3-3薬剤部門での対応

転院事例では、転院元からの施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）を入手し、自宅からの入院と同様に対応することが望ましい。

退院時には、入院中の薬剤に関する服用理由、処方変更理由、副作用情報、服薬管理に関する情報をお薬手帳や施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）を用いて保険薬局および転院先の医療機関などに情報提供していく必要がある。

また、使用する医薬品費に制限を設けられることもあるため、費用対効果を考慮した処方設計提案も重要な役割となる。

このように、保険医療機関の薬剤部門が継続した薬物療法の橋渡しをすることで、院内の医療従事者や地域の医療関係者との連携が円滑になり、連携の質が向上する。

日病薬発第2023-139号
令和5年10月12日

会員各位

一般社団法人 日本病院薬剤師会
会長 武田 泰生
日本病院薬剤師会 療養病床委員会
委員長 澁田 憲一

薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版）の発出について

平素より、日本病院薬剤師会の活動にご高配をいただきまして御礼申し上げます。

さて、本会では平成17年に「薬剤管理サマリー」を作成し、平成30年に改訂版を公開、個々の施設に適応するよう作り変えて活用いただくとともに、返書を活用した双方向の情報提供・共有もできるようになり、令和3年には小児版薬剤管理サマリー、令和5年には精神科版薬剤管理サマリーも作成し、各領域で特徴的な項目に改編し、現在も多くの医療機関で情報連携ツールとして使用されています。


令和2年度診療報酬改定では退院時薬剤情報連携加算が新設され、保険薬局への情報提供文書として薬剤管理サマリーが挙げられ、更なる活用が図られています。そのような中、病院完結型医療から地域完結型医療への変化、地域の医療機能分化はさらに進み、保険薬局のみならず、他の医や介護老人保健施設、医師や多職種への情報提供ツールとしても活用されています。

令和7年度第2回病院薬学認定研修会


この度、療養病床委員会では先に実施した「薬剤管理サマリ－の利活用に関するアンケート調査」の結果や現状を踏まえ『薬剤管理サマリ－（令和5年度改訂版）（以下、令和5年度改訂版）』を発出する運びとなりました。

この令和5年度改訂版は、情報量も多くなっていますが、必ずしもすべてを網羅しなければサマリ－を発行できないわけではなく、必要な情報、重要なポイントのみに絞って発行いただくことで切れ目のない薬物療法支援が継続可能になりますので、この機会に今までサマリ－を発行していなかった会員施設におかれましても幅広くご活用いただければ幸いです。

つきましては、会員の皆様に広く周知いただき、切れ目のない薬物療法支援のためにご活用いただければと存じます。

薬剤管理サマリ－（令和5年度改訂版）の使用にあたって 

薬剤管理サマリ－（令和5年度改訂版・記載例） 

薬剤管理サマリ－（令和5年度改訂版返書・記載例） 

薬剤管理サマリ－（令和5年度改訂版・返書） 

※エクセルのバージョン等により、自動計算の結果が表示されない場合は、お手数ですが、各施設で計算式等を修正の上、ご活用お願いいたします。

薬 剤 管 理 サ マ リ ー

作成日 2023/8/10

○×薬局 担当薬剤師様 御中

下記患者様の入院中の薬学的管理・支援等について共有させていただきますので引き続き支援の程お願いいたします。

基本情報									
氏名	日病 太郎		性別	男	生年月日	1930/8/8		年齢(歳)	93
身長(cm)	155	体重(kg)	50	体表面積BSA(m ²) [Du Bois's]			1.47		
入院日	2023/7/1		退院日(予定日)	2023/8/12		入院期間	42		日
入院時の病棟	一般病棟		退院時の病棟	地域包括ケア病棟		主治医	渋谷 次郎		診療科
									整形外科

今回の入院の目的・病名等

右大腿骨轉子部骨折

入院時情報（薬学的総合評価）

服薬管理状況	<input type="checkbox"/> 自己管理	<input type="checkbox"/> 看護師管理	<input checked="" type="checkbox"/> 介助者(家人等含む)管理	<input type="checkbox"/> その他	マグミットのみPTP
調剤方法	<input checked="" type="checkbox"/> PTP等	<input type="checkbox"/> 一包化	<input type="checkbox"/> 簡易懸濁	<input type="checkbox"/> 粉砕	
投与経路	<input checked="" type="checkbox"/> 経口	<input type="checkbox"/> 経管			
認知機能低下の有無	<input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有	指標としたツール	病名判断	アルツハイマー型認知症
アドヒアランス状況	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 多少問題あり		<input type="checkbox"/> 不良	<input type="checkbox"/> その他
副作用・アレルギー歴	なし				
お薬情報ツールの確認	お薬手帳	持参	薬剤管理サマリー	無	その他
					血圧手帳

検査情報

腎機能 (測定日)	2023/9/5	SCr(mg/dL)	0.9	Ccr(CG式:mL/min)	29.4
その他特筆すべき検査情報		標準化eGFR(mL/min/1.73m ²)	59.7	個別化eGFR(mL/min)	50.6

[illegible]

入院中の経過

日付	経過区分	医薬品名	経過の理由等
7/1	追加	カロナール200mg	疼痛コントロールのため3T 3×Nにて内服開始
7/1	減量	ファモチジン20mg	腎機能障害あり、ファモチジン10mg 1日1回に変更
7/5	追加	チアプリド25mg	入院後不眠あり1T 1×Aで内服開始
7/15	減量	カロナール200mg	地域包括ケア病棟への転棟、疼痛軽減傾向のため2T 2×MAに減量
7/20	変更	カロナール200mg	リハビリにて疼痛増強あり、2×MTに用法変更
8/2	変更	アムロジピン5mg	血圧100mmHg下回るため、アムロジピン2.5mgに減量

入院中の薬学的管理・支援に関する経過等

自宅にて廊下で転倒し、右大腿骨転子部骨折にあり、手術目的で入院。

入院時～疼痛コントロール目的にてカロナール200mg 3T 3×Nにて内服開始。

入院時血液検査にて腎機能障害あり。ファモチジン減量基準にかかるため、ファモチジン10mg 1日1回に減量。

入院後、不穏・夜間せん妄あり、チアプリド内服開始。内服にて落ち着き、夜間も良眠しています。

地域包括ケア病棟へ転倒後、疼痛軽減傾向にて、カロナール200mg 2T 2×MAに減量。リハ

に変更。変更にて疼痛自制内です。

収縮期血圧100-110mmHg推移し、100mmHgを下回ること多く、リハビリ時ふらつきあり、転倒リスクあるため、アムロジピン5mg→アムロジピン

2.5mgに減量。減量後、収縮期血圧110-120台推移し安定、ふらつきも落ち着いています。

退院時処方	6	剤	服薬しない残薬の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	→	有の場合の対応
医薬品名			1日量	用法	日数	特記事項	
アムロジピン5mg			0.5錠	朝食後	14日		
ファモチジン10mg			1錠	朝食後	14日		
メマンチン10mg			1錠	朝食後	14日		
カロナール200mg			2錠	朝昼食後	14日	減量検討中。疼痛状況に合わせて調節可。	
マグミット330mg			2錠	朝夕食後	14日	PTP調剤	
チアプリド25mg			1錠	夕食後	14日		

◆提供した本文書以外のお薬情報 ☒ お薬手帳 ☐ 手帳シール(未持参のため) ☒ 薬剤情報提供書 ☒ その他

薬剤総合評価調整加算	未算定	対象薬			
薬剤調整加算	未算定	対象薬			

退院後の薬学的管理・支援のフォローアップ依頼内容等

☒ 処方変更に伴う継続評価 ☐ アドヒアランスの改善 ☐ 投与方法 ☐ ポリファーマシー対策 ☐ 効果判定及び副作用モニタリング
☐ 認知機能 ☐ 身体機能 ☐ 生活環境 ☐ その他

カロナールは疼痛状況に合わせて調節いたゞよう説明しています。退院後、疼痛落ち着いているようでしたら、減量・頓用への変更についてご検討お願いいたします。

血圧低めにアムロジピン減量しています。減量にて血圧110～120台推移し、ふらつきなどなく経過しています。引き続き退院後の血圧のモニタリングをお願いいたします。

入院中、不穏・夜間せん妄にてチアリド内服開始となっています。退院後、傾眠になるようでしたら中止についてご検討お願いいたします。

以上、ご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。

〇〇病院	病院	〒150 - 0002東京都渋谷区渋谷2丁目12番15号	担当薬剤師	◆◆
		TEL : 03-●●●●-●●●● FAX : 03-●●●●-■●■●		▽▽
		Email : yakuzai bu@●●●●.or.jp		

西臼杵郡 3 町国民健康保険病院の統合再編と連携の構築

西臼杵郡人口 約**16500**人（4 割減少）

3 公立病院

経営統合・機能再編し、西臼杵郡の医療提供体制を維持する

西臼杵広域行政事務組合

2024.4 西臼杵医療センター発足

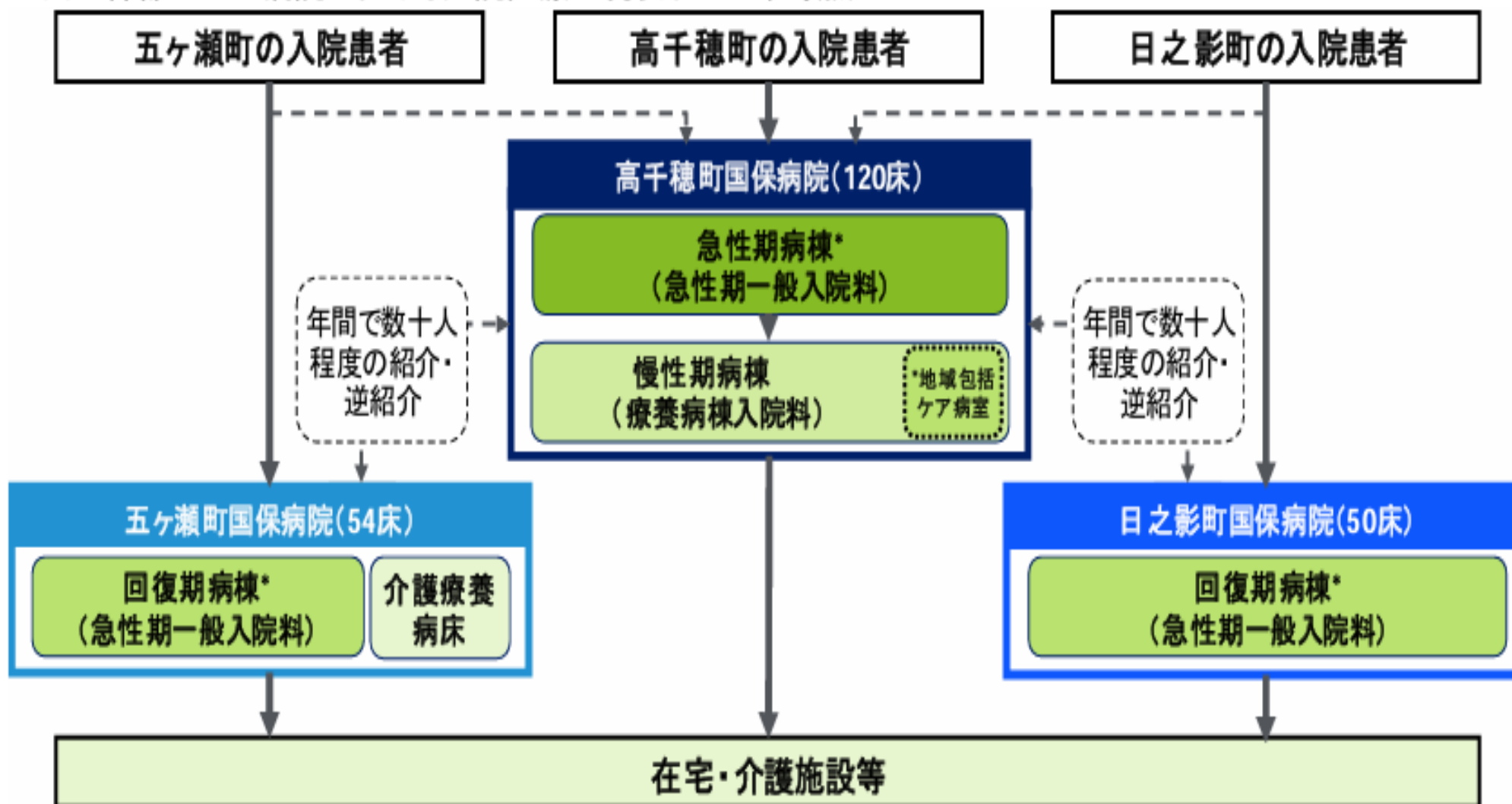
高千穂町国保病院

五ヶ瀬町国保病院

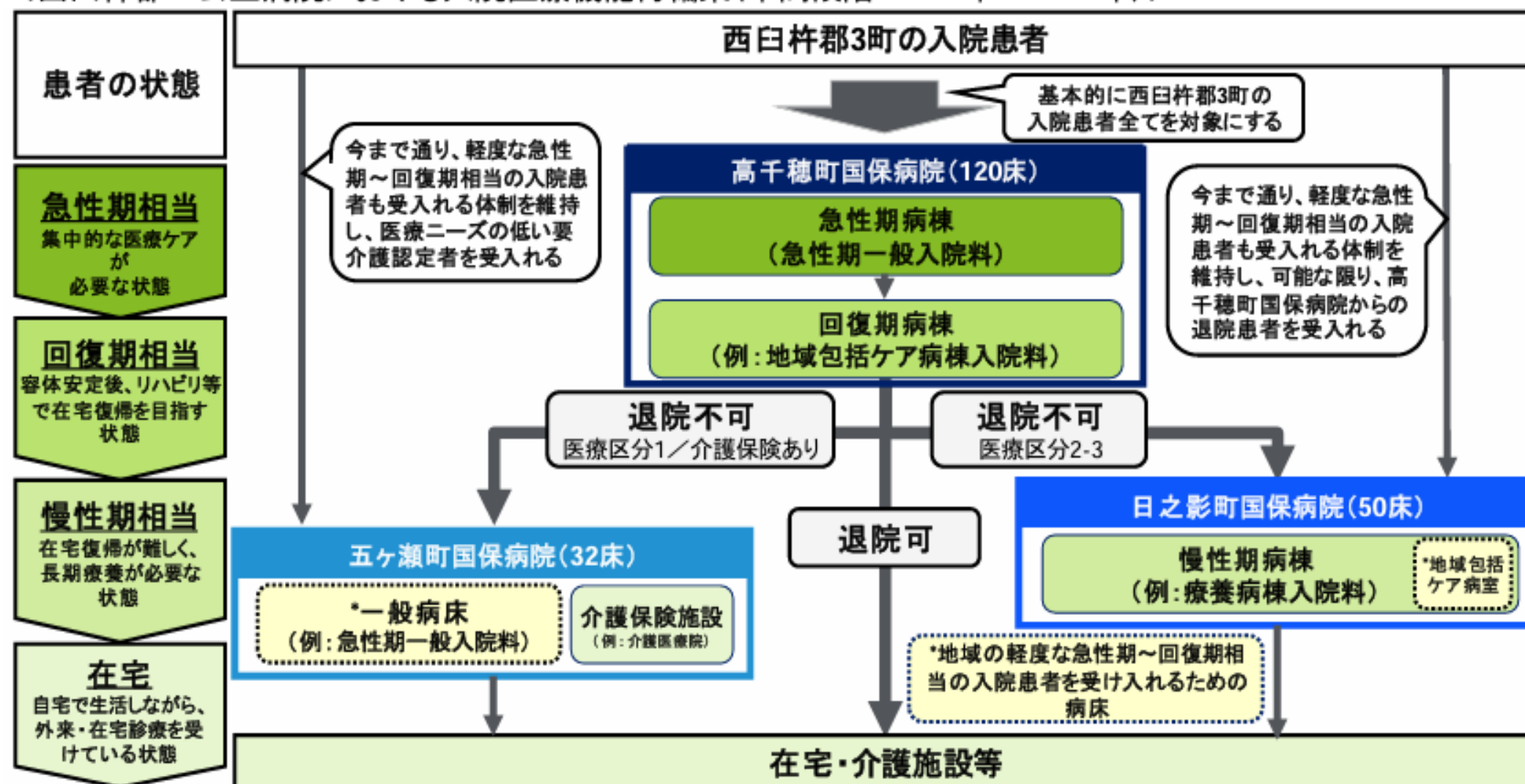
日之影町国保病院



＜西臼杵郡 3 公立病院における入院医療の現状(2020 年時点)＞



<西臼杵郡3 公立病院における入院医療機能再編案(中間段階:2022 年～2024 年)>



3 町病院の概要

高千穂町国保病院

病床数 120床（一般病床106床 地域包括ケア病床14床）
薬剤師3名 外来院外処方

五ヶ瀬町国保病院

病床数 50床（一般病床32床 介護医療院18床）
薬剤師1名 補助1名 外来院外処方

日之影町国保病院

病床数 50床（療養病床38床 地域包括ケア病床12床）
薬剤師2名 補助1名 外来院内処方

西臼杵医療センター

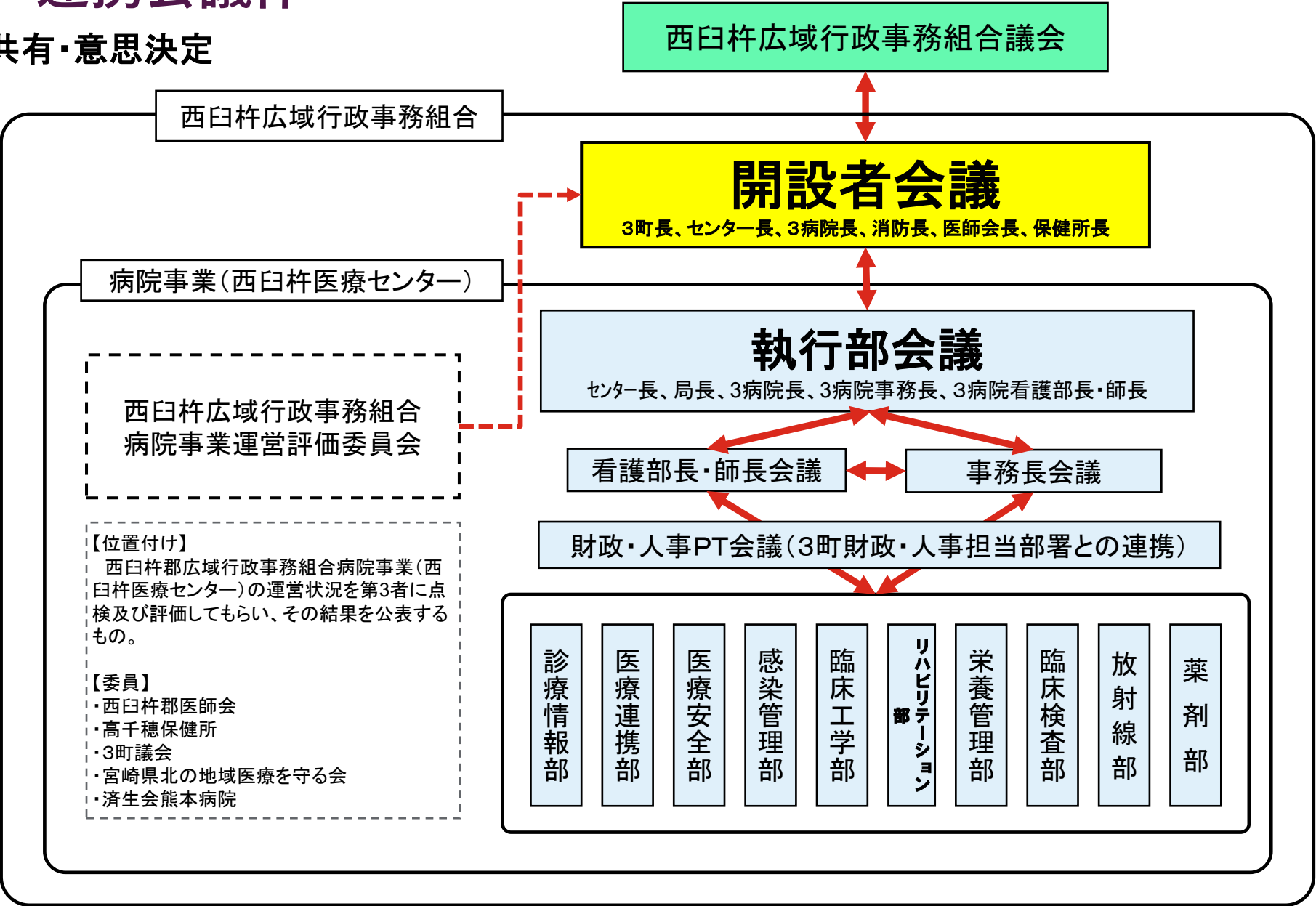
1 「連携」

2 「人材確保・育成」

連携

連携会議体

※情報共有・意思決定



連携 連携会議体

薬剤部部署長会議（3ヶ月毎に 高千穂町国保病院内で）

- ・ 薬学生職場見学の日程説明
- ・ 説明会への参加打ち合わせ
- ・ 修学資金の貸与状況
- ・ 医薬品共同購入の進捗状況の説明
- ・ 薬剤管理サマリーの取り決め
- ・ その他情報交換・共有

連携 連携会議体

仲間意識が生まれた

相談しやすくなった

業務の確認

情報収集

薬学生へアプローチ

連携の構築に繋がる

連携 各医療機関と 横と縦の連携



熊本大学病院



宮崎県立延岡病院



高千穂町国民健康保険病院



五ヶ瀬町国民健康保険病院



日之影町国民健康保険病院



済生会熊本病院



宮崎大学医学部
附属病院

横の連携 高千穂から日之影へ

一般病床から療養病床へ転院

事前に連携室から連絡 日程等調整（担当 連携室）

D r サマリーから薬剤の確認（代替薬の提案等準備）

転院当日 持参薬鑑別・・・D r サマリーと不一致

薬の情報は薬剤師が一番把握している

部署長会議で取り決め

転院当日 薬剤管理サマリー→持参薬鑑別→処方

整外 Dr サマリー (4/9記載)

内服薬の記載無し

薬剤管理サマリー (4/14記載)

ニフェジピンCR

フロセミド

スピロノラクトン

整外での処方はなかったが当院
内科の処方は継続との記載

D r サマリー (8/4記載)

アゾセミド

スピロノラクトン

アスパラカリウム

バイアスピリン

バルサルタン

タケキャブ

アムロジピン

マグミット

薬剤管理サマリー (8/14記載)

アゾセミド 8/13中止

スピロノラクトン

アスパラカリウム

バイアスピリン

バルサルタン

タケキャブ

アムロジピン

マグミット

内科 Dr サマリー (9/5記載)

デノタス

ビスプロロールフマル酸塩

ピタバスタチンCa

トラゼンタ

リクシアナ

ベルソムラ

マグミット

デノタスの処方があるのにデノスマブ投与の記載が無い

骨粗鬆症の病名がある (整外)

入院中の施行なし



転院時 薬剤管理サマリー
(デノスマブ投与の記載あり)



6月外来施行 8月入院 9月転院

（外来での注射剤治療に関する情報）

骨粗鬆症の治療など、外来で注射剤治療を行う場合も増えている。外来で投与される注射剤は、お薬手帳には記録されないこともあり、保険薬局や他の保険医療機関の医師や薬剤師が把握することは容易ではなく、重複投与や薬物相互作用などの確認等に支障を来す場合がある。

そのことから外来で投与される注射剤についても、お薬手帳等に記載し、情報共有することが重要である。

また、精神科領域においても持効性注射剤を行う場合も増えており、治療効果や副作用の把握のためにも情報を明記していくことが望ましい。

（地域医療連携の手引き Ver.2.0 2-1-3外来での運用例）

横の連携 日之影から高千穂へ

救急搬送

入院患者搬送

薬剤管理サマリー 入院中施行の点滴等直近の情報

外来患者搬送

D r サマリー お薬手帳

連絡があれば薬剤情報提供していた

横の連携 日之影から自宅・施設へ

日之影がかかりつけ

次につなぐ準備（多職種相互の協力）

元の施設への退院

自宅への退院

デイサービスの利用（ケアマネと）

訪問看護の利用（看護師と）

家族の協力

外来でも当院薬剤師が関わる

横の連携 日之影から自宅・施設へ

次の医療機関へ

退院前カンファレンス実施

薬剤師は不参加（薬剤情報提供書を提供）

退院時服薬指導（本人・家族・施設職員等）

かかりつけ病院？

かかりつけ調剤薬局？

カンファレンスで確認出来ないか

横の連携 地域医療推進講演会（2ヶ月毎に開催）

テーマ

連携（県立延岡病院 救命救急センター）

看護力（宮崎県看護協会）

労務管理（経営労務管理事務所）

経営（宮崎産業経営大学）

在宅・介護（在宅クリニック）

脳卒中（県立延岡病院 脳神経外科）

医療・消防・行政・介護福祉等多職種が参加

横の連携 診療材料におけるS P D（物品管理業務）の導入

高千穂町国保病院で導入しているS P Dを日之影町国保病院及び五ヶ瀬町国保病院に横展開し、経費節減と事務負担軽減を図る。（令和8年3月～）

期待できる効果

① 経費節減

- ・ 3町病院で一物一価の実施。
- ・ ベンチマーク比較による価格交渉。
- ・ 定数物品は償還払い（使った分だけ支払）
- ・ 使用頻度の少ない商品を病院間で融通。
- ・ 災害用備蓄の預託品設置

② 事務負担軽減

- ・ S P D業者による納品・物品補充
- ・ システムによる注文自動化
- ・ システムによる帳簿台帳等の作成

縦の連携

看護師相互派遣

昨年度に引き続き、今年度も県立延岡病院と看護師の相互派遣実習を実施

目的

西臼杵 3 町病院　看護師：

高次病院の技術や医療体制を学び、看護力の向上を目指す。

県立延岡病院　看護師：

中山間地域医療の現状を把握し、自施設の役割や連携について学ぶ。

効果

看護師の能力を向上させ、かつ、顔の見える関係を築くことにより、地域病院と高次病院の縦連携を更に充実させることが出来る。

縦の連携 県立延岡病院と日之影

県立延岡病院救急部看護師の相互派遣実習（R7.9）

救急搬送時の薬剤情報について
看護師に聞いてみよう・・・

救急搬送時の情報提供内容の確認

救急搬送時の注射剤（当院救急担当 N s）

縦の連携 県立延岡病院と日之影

救急搬送時情報

氏名・生年月日・性別

内服薬・自己注射薬

外用薬（循環器系貼付剤・呼吸器系貼付剤、吸入剤等）

外来時施行注射薬

禁忌薬剤・アレルギー歴

搬送までに使用した薬剤・投与した時間

入院中施行した薬剤（入院患者搬送時）

横の連携 日之影から高千穂・他医療機関へ

救急搬送（連携室・看護師と協力して）

入院患者搬送

薬剤管理サマリー 入院中施行の点滴等直近の情報

救急搬送時情報

外来患者搬送

D r サマリー お薬手帳

救急搬送時情報

縦の連携 県立延岡病院と日之影

救急搬送時の注射剤

アトロピン

アドレナリン

エチレフリン

ジアゼパム

ドパミン

メトクロプラミド

50%ブドウ糖注

生食

当院救急担当 N s

運用の方法・手順

保管・管理の検討

連携 まとめ

3 病院が統合再編し、協力して医療提供する

患者は 3 病院のいずれかで医療提供される

病院間の連携がさらに重要

各病院職員が良好な関係を築き、密な情報交換共有を行う

患者様の情報は途切れてはいけない

基幹病院との連携を通して、自身の知識向上を目指す

西臼杵医療センター

1 「連携」

2 「人材確保・育成」

人材確保・育成 施設見学

薬学生

九州医療科学大学薬学部

国際医療福祉大学薬学部から見学

他にも

看護大学・看護学校・高校等

施設見学受け入れ

人材確保・育成 修学資金貸与

貸与の対象者

医師、薬剤師、看護師の養成施設に在学中又は入学が決まっている方で、資格取得後郡内の公立病院で勤務できることを約束できる方

貸与金額

① 修学資金

医師・薬剤師：月額10万円 看護師：月額5万円

② 入学資金

養成施設等の入学金の2分の1に相当する額

(上限 医師・薬剤師：100万円 看護師：20万円)

人材確保・育成 実習受け入れ

看護学生実習の受け入れ

高千穂 R 7. 1 1 月から

日之影 R 8 年度開始予定

宮崎大学医学生実習の受け入れ

3 病院

地域包括ケア実習 R 7. 1 1 月から

人材確保・育成 3 病院薬剤部は・・・

新規採用薬剤師の研修

3 病院の研修 → **横**の連携

郡外の病院への研修 → **縦**の連携

薬学生実務実習受け入れの準備

3 病院協力して → **横**の連携

調剤薬局と協力 → 新しい連携

人材確保・育成 これから

施設見学受け入れ・説明会参加

実習指導薬剤師の育成・実習受け入れ

病院間異動を見据えた研修

郡外病院への研修

3病院で役割分担・協同して

まとめ